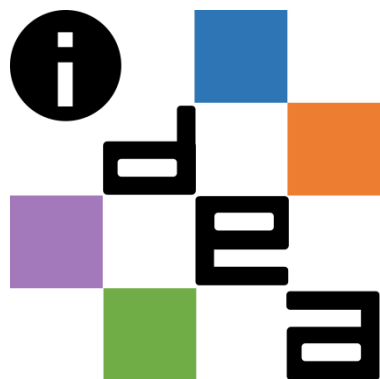




NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター アイデア

2016

7月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|----------------|
| 2 | 二言三言 | 一関の婚活事情と地域づくり |
| 4 | 団体紹介 | 川崎さくらんぼ作り隊(川崎) |
| 5 | 地域紹介 | 千厩第2-2区自治会(千厩) |
| 6 | 企業紹介 | 川嶋印刷株式会社(一関) |
| 7 | センターの〇〇 | 一関の涼を求めて |

一関の婚活事情と地域づくり

対談者 いちのせき結婚活動サポートセンター 事業コーディネーター 岩渕美央 さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

活動から見てくる独身者の気持ち

【小野寺】今どの地域でも「独身者が多い」「子どもが少ない」といった課題があり、“未婚問題”は地域の共通課題となっています。今回は、この課題に向けて取り組んでいるいちのせき結婚活動サポートセンターの岩渕さんにお話を伺っていきたいと思います。

【岩渕】私達は市から委託を受け、平成25年度から活動をスタートしています。行なっているのはお見合いや仲介的なものではなく、独身男女が交流できるイベントの企画・実施ということで、“会員さんが自ら行動していく場を提供する”というのが大きなポイントです。出会ってお付き合いが始まり、最終的には成婚して一関に住んでもらうことを目的としています。

【小野寺】今の会員数はどれくらいですか？



事業
コー
ディ
ネー
ター
岩
渕
美
央
さん

【岩渕】会員は650人を超えました。地域に分けると市内5割、県内2割、県外3割（うち宮城県が2割）ですね。県外では関東や中部地方からの登録もあります。いずれはUターンすることを視野に入れているということなんでしょうね。

【小野寺】地域別で見えてくる傾向から、会員さんの気持ちをどうくみ取りますか？

【岩渕】隣県や市外からの登録が多いということで、市内だといつも同じ顔ぶれだったり、顔馴染の方と会ってしまうこともあります。市外だと知らない方も多くて出会いの場も増えるんじゃないかということを感じていらっしゃるようです。一人でも知っている人がいると、素を出せなかったり動きにくいとい

う抵抗があるようです。

【小野寺】男女の割合はどれくらいですか？

【岩渕】男女比は、男性6割・女性4割です。一関の独身者は男女半々くらいですが、自ら婚活をしようと踏み出すのは圧倒的に男性が多いですね。

【小野寺】男性は女性よりも危機感が強いということでしょうか？

【岩渕】そうですね。男女の年齢層は女性だと20～30代、男性は30～40代が一番多いので、男性は年齢が上がるにつれて出会いが減っているのかなと思います。それから、会員さんは市街地を外れた農村部の方や、農家の方が多いですね。自分の家の土地があったり、家督だったり。

【小野寺】今は兄弟が少ないので、女性だけお婿さんを貰って家を継ぐという方も少なくないですね。男女の性別に捉われず、いち個人の生活スタイルとか人生観に立ち返って考えるべき部分ですね。

【岩渕】実際、「恋せよ花婿」というお婿さんがほしい女性をターゲットにしたイベントでは、珍しく男性参加者より女性参加者の方が圧倒的に多かったんですよ。あと、女性が結婚に踏み出せるかどうかというところでは、男性の仕事や生活基盤がすごく大きいと思いますので、「恋せよ合同説明会」という企業単位の説明会を行ったこともありました。

【小野寺】会員さんが抱えている背景がさまざまあって、一人ひとりに合わせた企画は難しいけど、だいたい皆さんが抱えている社会背景、個人生活背景を考えて、いろんな場面や条件を想定しながら企画しているんですね。

【岩渕】はい。一番は「参加してよかった」と思ってもらえるような企画をしたいんですが、参加者の方の年代によって場所や人数をかえたりという場面設定が難しいし、何をテーマに集まってもらうかという“テーマ設定”も同じです。会員さんの背景からいかに読み取るかが大切だし、他ではやっていないオリジナルの切り口でというのにも心掛けています。

【小野寺】会員の中で、イベントに出てくる人は何割

くらいですか？

【岩渕】実は、おおよそ2～3割くらいで、お申込みされるのはいつも同じ方なんですよね。会員登録だけして安心しているのか必要性を感じないのかはわかりませんが、現状はその通りです。私達は会員の方全員にイベントや講座のご案内をメールで流しているので、その場に来て頑張っていたいただければ嬉しいんですけども、出てきてくれない方に関しては私達の課題だと思っています。

“選ばれる人” になることがカップル成立への道

【岩渕】イベントをしていると、実はイベント内でカップルが成立するより、終了後に気になった人とお友達からスタートする方が多いんですよ。緊張が解けて話しやすくなるのかもしれませんが、でもそれだと主催者側では追跡できないので、そこが辛いところでもあります。

あとは、よく男性から「イベントは男女同数でやってほしい」という意見をいただきますが、男女同数になったからといって必ずしもカップルが増えるという傾向はありません。カップルになる方はお互いにフィーリングが合うかどうかですし、自分が“選ぶ”より“選ばれる”人になるというくらいの気持ちで参加していただけないと、カップルになるのは難しいと思います。

【小野寺】特に男性の方は、まだまだ相手を選ぶつもりで参加していると聞きました。

【岩渕】ええ。カップルになる方は、お互いに選ばれてなっているので、そこに気付いていただかないといつまでも残ってしまうんですよね。なので、私達は自分が選ばれる人になるための講座も開設しています。



地域での学びを婚活につなげる

【岩渕】カップルになった方から「デートの場所はどこにしたらいいですか」なんて相談を受けることがあります。できれば出会った後はどこに出かけるにしても何を食べるにしても自分で考えて行動していただきたいなと思います。結局、婚活は人と人との関り方なんですよね。実際にイベントの様子を見ると自分から積極的に動かなかったり、相手の反応を待ってい

たり、終わった後に「あの人と連絡とりたかった」なんていうこともあって。

【小野寺】なるほど。そういう人達って地域での居場所が必要だと思うんですよね。昔は地域の青年部で若い人がワイワイやってた時代があったから、その中でお互いに異性を紹介しあう場があったりして、世間的に若者の居場所があったけど、今は青年部がなくなってきているから独身者は「地域に友達がいなくて」ってポツンとしちゃう。

【岩渕】若い人が地域活動に関わる場があれば、人と接する時間が増えてコミュニケーションのとりかたも覚えるし、自分自身の引き出しを増やすことにもなると思います。普段からそうやっていかないと、急に婚活の場に来て動けないですよね。

【小野寺】そうそう！！



【岩渕】普段から色々な所に参加して幅を広げていって、そこから婚活に繋がるようにすれば、本番でも自然体でいられるし、会話にも困らないかなって。会員さんの中には、「周りに言われて参加してみた」という方もいらっしゃいますので、地域ぐるみで声をかけてあげるのも、踏み出すきっかけになるのかなと思います。

【小野寺】そうですね。だから地域の中に独身者を誘ってもらうことはすごく大事だと思います。

【岩渕】人との関り方を学べる講師は地域にたくさんいるということですよ。

【小野寺】もし、「うちの地域で婚活事業をやりたいんだけど協力してもらえますか」という問い合わせがあった場合、対応は可能でしょうか？

【岩渕】できる限り協力したいと思っています。ただ、全部任せられると私達の色になってしまうので、主体は地域の方で私達はサポートというやり方でアドバイスや助言ができればと思います。

基本情報

【いちのせき結婚活動サポートセンター】

住所：〒021-0881

一関市大町 4-29 なのはなプラザ4F

電話：0191-48-4677

ホームページ：<http://funspo.net/>

団体 紹介



会長 千葉基喜さん

～基本情報～

- ◆ 隊長：千葉琢也さん
- ◆ 連絡先：〒029-3404
一関市川崎町門崎字千手堂 73
- ◆ 電話：0191-43-2759

さくらんぼで地域おこし 新たな観光拠点になることを目指して

川崎にオープンした観光さくらんぼ園

「さくらんぼが有名な場所」というと山形県や青森県をイメージする方が多いと思いますが、ここ一関市川崎町にも観光さくらんぼ園があり、季節になると県内各地から多くのお客さんが訪れていることをご存じでしょうか？

陸中門崎駅から北に約2km進んだ場所にある千手堂地区は、東山町に隣接する水資源豊かな農村地域です。ここで平成26年にオープンした「川崎観光さくらんぼ園」は、川崎町の新たな観光拠点となることを目的に地元農家で組織する川崎さくらんぼ作り隊が運営。会長の千葉基喜さんの家の敷地内に造られた高さ5mのハウスには、天井を超えそうな程に成長した23本の立派なさくらんぼの木があり、生い茂る葉の間からは多くの実が顔を覗かせています。

家族、先輩、仲間…みんなに支えられて

「うちは親子三代でやってます」。そう話すのは、琢也さんの祖父である千葉基喜さん。御年83歳でありながら現役で農業をし、自宅で板金屋を営む息子さんとお孫さんと協力してさくらんぼのお世話に励んでいます。「うちは農家だから野菜づくりは経験あるけど、果物に関しては初心者でした。それでもここまで育てられたのは、イチから教えてくれた先生のおかげです」と笑顔を見せます。

千葉さんが“先生”と呼ぶ方は、活動を始めるきっかけをつくった方でもある小野寺康雄さんです。道の駅かわさき主催の農家組合の研修旅行で知り合い、小野寺さんがさくらんぼ栽培をやめるのを機に資材を提供するからやってみないかと勧められ、挑戦することを決意。道の駅の千葉駅長さんからも強く背中を押さ

れ、団体を立ち上げて一関市の地域おこし事業や県の補助金に応募。受けた補助金で、土地10アールを土壤改良しハウス3棟を整備しました。また、栽培技術を学び将来のイメージを膨らませるため青森県南部町を視察。地域ぐるみでさくらんぼ農園を経営し、年間6万人の観光客を集めている現場を見て「川崎もこんな風になりたい」と刺激を受けました。

苗のお世話は小野寺さんの指導力にリードされ、平成23年に植えた苗木は一本も枯れることなく元気に育ち、3年後に初めて実をつけることに成功。プレオープンでは地元幼稚園の園児たちがもぎとりを体験し、翌年は広く周知をかけ県内各地から3日間で300名以上が来場。「さくらんぼは入梅時期に実る果物だから、雨に当たると実が裂けてしまう。ビニールをかけ雨や鳥から守らなきゃダメだし、毎日新芽を摘み取るお世話もあるので結構手間がかかるんです」と千葉さん。「昨年は100kgの収穫量だったのに対し、今年は350kgを見込んでいます」と期待に胸を膨らませます。

さくらんぼを川崎の特産に

まだ研究中の部分もあるそうですが、千葉さんの元には「私もさくらんぼ栽培をやってみたい」という方が見学に訪れています。夢は国道284号線沿いの休耕田に「さくらんぼロード」をつくり地域を活性化させること。計画が具体化し活動に賛同してくれる方がいれば、千葉さんがもつ技術や情報を提供し川崎にさくらんぼ農家を増やし仕事をつくり、周辺施設とも連携しながらより多くの観光客が集まる地域にしたいと意気込みを語っていただきました。



大粒で甘い実がたくさんありました

地域紹介



自治会長 伊藤勇一さん

～基本情報～

◆会 長：伊藤 勇一さん

◆連絡先：〒029-0803

一関市千厩町千厩字前田 95-2

◆電 話：0191- 52-3489

少数の意見も拾い上げみんなが参加できる形を考える

地域資源豊かな千厩地区の中心地

第2-2区自治会は、昔ながらの商店が並ぶ国道456号線や沿岸部と一関市を結ぶ国道284号線、一級河川千厩川、東洋一の奇岩「夫婦石」、金山一揆蜂起の地である松澤神社、県の有形重要文化財に指定された薬師如来像が安置されている大光寺等、文化・観光資源に恵まれた千厩地区の中心地です。同自治会の4代目自治会長である伊藤勇一さんに自治会活動への住民参加について伺いました。

同自治会の地域では、年間を通して「夫婦石観光まつり（おいとこ大会）」や「せんまや気仙沼街道まつり」「千厩夏まつり」等、たくさんの行事が行われ、同自治会も近隣自治会や商店街振興会と一緒に積極的に活動に参加しています。中でも同じ行政区の松ノ木沢自治会と実行委員会を組織して第2-2区自治会館と松澤神社を会場に開催される「炎のまつり」は2-2区総出のメイン行事です。世代間交流として昔話の読み聞かせや繭玉ならし、昔遊び、餅つき等の小正月行事を子供会と一緒に楽しみ、夜には、松澤神社の階段が500個以上の夢灯りで照らされ、神社の広場では伝統行事「さいどん」が行われます。さいどんは炎に正月飾り等を納め、無病息災を祈る行事ですが、過去に大火を経験している地域であることから、炎を見ながら、火の怖さやありがたさを伝え、防災の輪を広めたいという思いも込められています。

みんなの声を取り入れた地域づくり計画

平成26年度に千厩地区まちづくり協議会の地域づくり計画策定に向けた動きの中で地区内の自治会ごとにも地域づくり計画をつくることになりました。同自治会では、平成26年度中に住民アンケートと自治会内

に設置した計画策定委員会による話し合いで計画を策定し、平成27年度からアンケートに書かれた声を1つでも多く実現しようと事業を展開しています。「世代を超えて誰でも参加できる行事がほしい」という意見を取り入れ、子供会の朝のラジオ体操に大人も参加するよう呼びかけたり、家族で参加できるグラウンドゴルフ大会を開催し、行政区内の一体感の醸成のため、松ノ木沢自治会とも一緒に取り組む等しました。

大切なことは参加する人の気持ちを考えること

同自治会では、毎年自治会役員と子供会育成会との意見交換会を開き、自治会活動や世代間交流、活動への参加の悩み等を話し合っています。また、若者の活躍できる場として、自治会報の編集委員に若者に入ってもらいました。

若者のアイディアで名づけられた自治会報「Oraho（おらほ）」について「題材や写真の撮り方、記事の水準どれも私達の世代だけではできない内容」と伊藤さんは感心し、「『若い人は出てこない』と言うと余計に出てこなくなる。まずは参加する人の気持ちを第一に考えること。計画づくりの過程でのアンケートや話し合いで地域に対する思いを刺激できた。参加したいと思っていても一歩を踏み出せない人もいるかと思い、少数の意見も尊重してアンケートの中から事業を行って見たが、いろんな世代の参加があり、大変おもしろかった。これからも人数は気にせず、みんなが共通して参加できるものを考えていきたい」と住民参加のヒントを教えてくださいました。



炎のまつりでの餅つきの様子

企業紹介



代表取締役
菊地 慶矩さん

～基本情報～

- ◆代表取締役社長: 菊地 ^{よしのり} 慶矩さん
- ◆本店: 〒021-0882
一関市上大槻街 3-11
- ◆本社工場: 〒029-4194
平泉町平泉字佐野原 21
- ◆電話: 0191-46-4161
- ◆FAX: 0191-46-4165

家族が自らの力を十分発揮できる環境づくり

愛・会い・合い・iを活かす

明治44年3月、川嶋印刷株式会社の前身となる川嶋商事を初代川嶋善次郎さんが立ち上げてから105年を迎えた同社は、家庭や生活の必需品・貴重品を保管する化粧箱屋としてスタートしました。その後、初代の甥であり現代表取締役社長の祖父にあたる菊地岱亮さんが川嶋商事を引継ぎ、父である清さんが昭和11年に活版印刷機を導入し、昭和25年7月からは株式会社川嶋印刷所として運営してきました。

「我が社の基本理念は『愛行の実践』としています。愛行とは、私が創った造語になりますが」と語るのは、代表取締役社長の菊地慶矩さん。続けて「愛というのは人それぞれ感じるがあると思うんです。愛情の愛、出会いの会い、合点の合い。イメージは人によっても様々ありますね？私はお客様や取引先、従業員やその家族そして私たちが生かされている自然環境、住んでいる地域全てを含めて『活かすこと』を愛行ととらえています」と語ります。

子育てはいつの時代も支え合い

「初代から運営を引き継いだ私の祖父は30歳で亡くなったので、若かった祖母は相当苦労しながら川嶋商事を守り、子どもたちを育てたと、よく聞かされたものです。営業や納品に行こうにも当時の移動手段は自転車や徒歩でしたからね。一日中かかったり、数日かかったりしたこともあったといいます。そんな時『小さな子どもたちは、どうしていたんだろう』と思うでしょう？昔はね、近所の人であつたり従業員であつたりみんなで協力し、みんなで育てる。それが当たり前。それは時代が変わっても本来同じで、子育て中の社員も育児と両立して自身の能力を職場で十分発揮できるような環境をしっかりと整えること、協力が重要ですね」

と語る菊地さん。同社は、平成19年、21世紀職業財団岩手事務所から「職場風土改革促進事業主」の指定を受け、仕事と子育ての両立支援制度を男性・女性社員双方が気兼ねなく利用できるよう子育てにやさしい職場づくりを推進しています。

「実はね、子育てを経験した社員数名の『こういうのがあったらいいね』『こういった協力ならできるよね』という声から始まったんです。社長が『こうしたいから、こうしなさい』では社員は本来の能力を発揮できないんですよね。何事も基本的な目的だけ提示してあとは社員に任せています。だから意外と社長は知らないことも多いんですよ」と笑顔で語ります。

川嶋商事を守り抜いた祖母と戦時中不在だった父の代わりに川嶋印刷所を切り盛りしていった母。菊地さんが語る子育てにやさしい職場背景に、女性の強さと愛情が伝わってきます。

すべての生命を活かす

平成14年、地球環境に考慮した企業活動のための国際規格ISO14001(環境マネジメントシステム)認証取得後、平成17年には「いわて地球環境にやさしい事業所(4つ星)」に認定された同社。年2回開催するクリーンアップ大作戦や地域の環境イベントにも積極的に参加しています。「生命を持つものは人間や動物だけではなく、機械や扱う情報にもすべてに生命が宿ります。また、山・川・林・森など地球環境すべてに生命があるんです。バランスを崩さずどう活かすか、やはり行きつく先は『愛行』の一言。今後も自然環境保護活動に力を入れていきたい」と最後に力強く語っていただきました。



国道4号線沿いの本社工場

今回の特集は？ 一関の涼を求めて

センターの 〇〇！



この季節、次女が育てているアサガオは、我が家に涼と癒しを与えてくれます。

～今月の特集～

ジメジメ・ムシムシ梅雨の時期が明けると、まもなく夏本番。外に出ればジリジリと日光が照り付ける季節となりますが、部屋に閉じこもってエアコンではもったいない！一関市内には夏の暑さを吹き飛ばし、涼を肌で感じることができる場所があります。今回の特集はそんな自然の涼しさを求めて体験レポートをお送りいたします。



小さな子どもと一緒に楽しめる～ジャブジャブ広場～



小さな子ども連れのご家族でも楽しく過ごせる一関温泉郷・真湯温泉施設。真湯温泉センター交流館や宿泊できる真湯コテージなどの他、ジャブジャブ広場&屋外遊具は小さなお子様に大人気！涼を感じる星形池は、桂沢川の冷涼な沢水を引水しているのだとか。今年は7月中旬から星形池に水が引かれます！パパやママも一緒にジャブジャブしちゃいましょう♪

□所在地 □〒021-0101 一関市巖美町字真湯1番地

□連絡先 □一関温泉郷 真湯温泉 0191-39-2713



国道342号線を須川方面へ。とんがり屋根が目印。

お弁当を広げてピクニック、ハイキング気分を満喫！



家族みんなで学習しながら涼を感じる～幽玄洞～



貴重な海底化石の展示、生物の歴史や地層について学べる空間です。



体感温度13度の世界。日本で最古の鍾乳洞と言われています。

一関市東山町にある幽玄洞は、3億5千万年前の貴重な化石がみられる鍾乳洞です。希少な古生代中期の地層を自分の目で見て触れて学ぶことができます。屋外との気温差が11度（6月12日気温24度）あり、真夏はさらに涼しく感じることでしょう。洞窟に隣接した幽玄洞展示館では洞内案内図とともに町内で発見された珍しい化石も展示されていますよ！

□所在地 □〒029-0302 東山町長坂字東本町154-1

□連絡先 □幽玄洞観光 0191-47-3303



自然が奏でる大人の涼を求めて～大東町興田

こぐろだき
小黒滝



深山幽谷を思わせる秘境に、重なり合った大岩石を流れ落ちる水の白さと、あたりの樹々、草花とが、四季折々の美しさを織りなし、特に秋は紅葉のすばらしい眺めが堪能できる小黒滝。興田川支流・鳥海川にあり、夏には滝の流れる涼しげな音と鳥たちのさえずりが心と体を癒し、木々をかきわけささわやかな夏風が大人の体に涼を与えてくれます。

□所在地 □〒029-0602 一関市大東町鳥海字小黒滝

□連絡先 □一関市大東支所 産業経済課 0191-72-2111



滝から流れ落ちる水の音がすがすがしく清涼感たっぷりです。

県道から滝を望むと、滝と緑が織りなす美しい風景が広がります。



次回の特集予告… 夏本番！！～夏祭り特集～です。お楽しみに！！

おしらせ

一関

第23回企画展 -米盛大翔の世界-

鹿児島県の自閉症アーティスト、米盛大翔君の作品展を開催します。CGを用いて描かれた米盛大翔君の作品には、「みんなでいっしょが楽しいよ!」というメッセージが込められています。期間限定でコーヒー1杯の無料サービスを実施しています。

【期間】平成28年7月10日(日)まで
【時間】10時~17時(入館は16時30分まで)
【場所】さくらなみき自閉症美術館
【料金】無料
【問合せ】0191-48-3622

花泉

第11回 チャリティ足もみ体験会

茅の輪くぐり等の神事により半年に一度の節目のお祓いをし、心も体も健康であることを祈禱する夏越祭を開催します。その中で行う足もみ体験会の収益金は、復興応援事業に活用いたします。事前に下記電話番号までご予約ください。

【日時】平成28年7月18日(祝・月)10時40分、11時20分、12時40分、13時20分、14時
【場所】御嶽山御嶽神明社
【料金】2,000円
【問合せ】0191-82-3382

室根

青空 camp2016

室根山の自然を満喫しながら流しそうめんやバーベキューを楽しもう! 20~40歳までの独身の方が対象で、定員は男女各20名です。7月14日までに下記問い合わせ先までお申込みください。

【日時】平成28年7月23日(土)10時~15時30分
【場所】望洋平キャンプ場
【料金】2,000円
【問合せ】青空 camp 実行委員会(室根市民センター内)
【電話】0191-64-2347

花泉

Ciel voler marche vol.2

食べ物や雑貨など20店舗以上の作家が集い作品の展示販売を行います。ドリンクやクレープ等の軽食、消しゴムはんこやパステルアートなどの体験型のお店もごございます。ぜひご家族でお越しください。

【期間】平成28年7月23日(土)~24日(日)
【時間】10時~17時(24日は16時まで)
【場所】ビストロ・シェル ヴォレ(花泉町涌津字道下54-4)
【料金】入場無料
【電話】0191-82-5335(場所と同じ)

一関

いちのせき 市民フェスタ 2016

市民活動団体や個人、社会貢献活動を行う企業が集い、展示や活動紹介を行います。スタンプラリー、抽選会、ステージ発表のほか、一関市民によるファッションショー「イチコレ」への参加者を募集しています。参加無料で服装は自由です。

【日時】平成28年8月28日(日)10時~15時
【場所】なのはなプラザ
【料金】入場無料
【問合せ】いちのせき市民活動センター
【電話】0191-26-6400

一関

一関ハンドクラフト展 vol.4

岩手・宮城のハンドメイド作家53店舗が集い、手作りを販売します。パンや珈琲などが食べられるカフェスペース、手作り体験ができる店舗や整体など多様なお店が出店します。世界でひとつだけのハンドメイド品をぜひご覧ください。

【日時】平成28年8月26日(金)~28日(日)10時~16時
【場所】一関文化センター(展示室・小ホール)
【料金】入場無料
【問合せ】lovely@redbutterfly.biz(鈴木)

一関

いちのせき賑わい「ど市」 出店者募集

毎月第一土曜日に開催している「ど市」への出店者を募集しています。開催日の2週間前までにお申し込みください。

【日時】平成28年9月3日(土)、10月1日(土)9時30分~14時30分
【場所】錦町水天宮通り(歩行者天国内)
【料金】露店 1回 5,000円×1
露店 2回 4,500円×2 ほか
【問合せ】同実行委員会(一関商工会議所内)
【電話】0191-23-3434

一関

新規キャリアサポーター募集

キャリア教育支援として、これまで培ってこられた技能・技術(工学系のみならず広義で)などの仕事の体験や経験を、ボランティアで子どもたち(小・中・高校生)や若者に伝えるキャリアサポーターを募集します。活動できる日時や時間帯に合わせて活動でき、若者との交流や様々な職業の方との情報交換の場にもご活用いただけます。

【問合せ】ジョブカフェ一関
【電話】0191-26-3910

一関

お試し移住 in いちのせき

一関に移住を考えている方、一関の生活を丸ごと体験できるお試し移住をしてみませんか? 敵美の一棟貸切ゲストハウス「山笑亭」に滞在。農林業体験や市内の空き家情報をご用意しています。予約は下記電話番号まで。

【期間】2泊~7泊まで選べます。
【体験場所】一関市敵美町字外谷地
【料金】体験料は下記まで問い合わせください。
【問合せ】いちのせきニューツーリズム協議会
【電話】0191-82-3111

今月の表紙



松川市民センターからの帰りに見かけた大型トラックの列。荷台が豪快にせりあがって綺麗に並んでいる大型トラックたちの姿はまさに壮観。碎石を運送するトラックに雨水がたまるようにという「雨対策」なのだそうですよ。

Q & A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q

一関で活動している市民活動団体について教えてください。

A

いちのせき市民活動センターの情報コーナーやホームページにて団体情報を公開しております。情報コーナーには団体別ファイルを置き、過去に掲載された新聞記事のスクラップや団体のパンフレットもご紹介しておりますのでお気軽にご利用ください。

